

平成27年度 第1回鉏路市まち・ひと・しごと創生意見交換会（議事要旨）

日時：平成27年8月21日（金）午前10時00分～12時15分

場所：鉏路市役所防災庁舎 災害対策本部室

出席者：別紙 出席者名簿

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 地方創生と鉏路市の取組について

（1）国から示されている地方創生、及び鉏路市の取組について

- ・事務局より、国の長期ビジョン・総合戦略、国の基本方針2015（概要）、鉏路市の総合戦略・人口ビジョンの策定体制、鉏路市の策定方針を説明

（2）鉏路市の人口減少と今後の対応方向（鉏路公立大学 佐野センター長より説明）

- ・鉏路公立大学地域経済研究センター長 佐野教授より、鉏路市の人口減少と関連する経済動静を提出資料に基づいて説明

参加者より質問等なし

4. 意見交換

○・・・参加者 ●・・・事務局 △・・・オブザーバー

○この地域の危機的な課題に関しては、市長や市役所の職員に講演をしていただき危機感を共有してきました。その中で人口などの将来予測の数字の捉え方や総合戦略への反映については、それを受け入れて対応する、また、上昇を目指して取り組むと二つの方法があると思うが、その二つを一緒にやっていくべきだと思う。

自分の活動として、この2年間、食と観光とエネルギーという3つを軸に行ってきた。食については、鉏路圏域の人口をターゲットにするだけでなく、首都圏はじめ世界を視野に、鉏路港、鉏路空港を核にして外貨を稼ぐという世界戦略を持ってやってきた。エネルギーについては火発構想であり、コールマインの石炭の使用率を発電会社と約束できる形を模索している。観光については、スマイルジャパンの誘致を行った。大きな経済活性化にはつながらないが、地域特性を活かした取組として行っており、地道に活動させてもらっている。もう一つはIR構想で、域際収支を向上させて、法律はまだ整備されていないが市の税収という確保にもつながる。自分の勝手な試算だが、鉏路市に直接落ちる金額は20億から60億円と概算している。

○中小企業家同友会政策委員会では、中小企業基本条例にもとづいて中小企業が活性化することが地域経済を活性化することに繋がるという信念のもとで活動を行っており、先ほどの紹介のあった釧路市の政策プランの中にある域内循環の推進を釧路市と連携しながら活動をすすめている。そうした域内循環を進めるにあたっては、民間の需要だけではなく、民間の投資という部分にも大きな役割があると考えられるので、そこを進めていきたい。

釧路市が危機的状況にあることがよくわかったが、地域間競争とすれば、釧路市は同規模の都市と比べて厳しい状況にあることが現実だと思う。歴史的に発展する都市もあれば衰退する都市もあるかと思うが、そういった中で釧路が今、衰退しているとするなら、その衰退する理由を究明する必要があり、抗きれいな部分があったとしても、他地域と比べて圧倒的な魅力を作っていかなければならず、自分達の活動から進めていければと思っている。

○物流を核に釧路を活性化できないかと考えているところだが、無いもの新しく生むというのは難しいので、今あるものをより活性化していくことが重要である。釧路でモノを消費するだけではなく、北海道から釧路を中継して世界に流れる中継点というところで活性化するために、港に投資をする必要がある。それは釧路自体の活性化だけではなく、港周辺の機能がより便利になることによって、この地域で大きな収入を得ることができると思う。また、今道内ではトラックの運転手の労働環境が厳しくなっており、運輸局からも指導が強くなっていて、長距離を走らせることが出来なくなっている。これは、釧路の地域環境や利便性をPRするいい時期であり、バルク等で港が整備されている今に丁度適した時期であると思う。

人口減少問題についてだが、釧路の人は釧路が好きではないということが言われてきたが、それを何とかすることが釧路を活性化する大きなキーワードだと前から思っていた。最近感じるのは少しずつ釧路が好きだという人は増えていると思う。釧路の地域情報を発信してくれる人が増えてきて良いことだと思う。しかし、それでも釧路の労働人口が減っているというのは釧路の就職口がないということだと思う。釧路に魅力がないのではなく、純粋に釧路に就職先がないのが一番の問題。企業収支等を考えれば、人を採用し過ぎると業績に悪影響を与えるし、また、法律にもとづき高齢者を65歳まで雇用するとしたところ、余計に新しい人を採用できなくなっている。釧路市全体でどういう仕組みを考えるか、正職員ではなくても就職できる仕組み、新たな需要を生む仕組み等を考えていく必要がある。

○今ある釧路の社会ストック、港や道路等の整備を進めて、釧路の拠点化を戦略的に進めていかなければならないと思う。根室釧路圏の市町村との連携も深めながら、拠点性をもっと強化していくことを考えるべき。空港の整備、フェリー等もあるが、それだけではなく、今、日本ではキャンピングカーが伸びているので、そういう人たちを引き込むようにする。地域のストックを活用していけるようなチャンスはまだまだたくさんあるので、皆で取り組むことが重要である。

都市の強靱化という点では、中心市街地から非難する道は跨線橋を越えなければならず、交通渋滞が発生する。幣舞橋でも同じく渋滞が発生すると思われる。その場合は大津波が来て15分以内に逃げられないことになる。そういうことも考慮しながら、駅の高架だけではなく、都市機能を強化していくことが重要だと思う。

中心市街地に図書館が出来るのは素晴らしい話だと思う。市長も良く決断されて取り組まれたと思うが、色々なところに分散しているものを集約することは必要である。公立大学、教育大学、高専等が分散してあるが、若者が集まりやすいまちづくりをするならば、図書館以外に大学のサテライト機能を中心市街地に持ってくることも考えるべき。その近くに工業技術センターや試験場、つまり釧路が持っている知識、人材の集約を戦略的にやっていただきたい。重点を絞って、生産性が上がり、それによって収益があがるまちが出来るように戦略を立てていくことが重要。

○人口については、数字の上では少しわかっていたつもりだったが、今日の話聞いてこんなに大変なことになっていることに驚いた。市民団体が活動しているのでインフラではなくソフトの話をする。人とのつながりを考えたとき、釧路市のバックアップがある場合は、職員は手伝ってくれるが、それが無いときは手伝えないと言われることが多い。他の官公庁は快く手伝ってくれる。もちろん、市の職員の中でも全く関係なくても手伝ってくれる方もいる。何故、市職員が手伝ってくれないのかを考えると、それは市職員に余力がないと思われる。つまりは非常に余裕がない仕事になっているのではないかということである。

それともう一つは、団体の活動をしているときに感じるのが、市民と市職員が仲良くできてないこと。同じ人間同士で市民でありながら、市役所にいるからということで市職員が攻撃されていることをよく見る。そういうことが解消されると釧路市自体も良くなっていくと思う。市民と市職員が連携して色々なことに取り組んでいくことによって、釧路市にいたい、またはこの地に来たいという人を引っ張ってこられると思う。

女性の目線で話をさせていただくと、不妊治療の問題や、マタニティハラスメントで仕事ができない人が沢山いるということが問題になっている。釧路市が率先して、働きやすい、女性が継続して仕事をする事が出来る行政機関ということをアピールして行くことが大切。また釧路市の企業で、そういう女性が働きやすい会社には、市が何か優遇することが出来ればよいと思う。釧路市は女性が子供を産み育てることができる場所として全国的に発信していただければプラスにつながると思う。

○今年から釧路市民になったが、釧路市は札幌や東京から見ると他にはない良いところが山ほどあると思う。食、観光資源と、釧路、道東地区に人が集まる動機は山ほどあるが、定住が進まないというところは、やはり就職先がない。または、仕事があったとしても若い人達と仕事のミスマッチ、あるいは賃金水準が低いということが考えられる。そのことをどうやって解決していくかを考えるのが今の地方創生のテーマではないかと思う。

雇用を作るというのは簡単ではないが、自分が思いつく方法は3つほどしかない。ひとつは、釧路は非常に立派な企業が多い。釧路の企業を見て思うのは、厳しい淘汰の中で勝ち残ってきたせいか、歴史があり内部留保があって非常に体力がある企業が多い。地元の雇用を増やすためには、そういう力のある企業が活性化、あるいは拡大していくしかない。それともう一つは外部から企業誘致する。あと一つは新しい産業、あるいは既存の事業を変化発展させる。企業誘致の点でいえば、道東に来る動機が必要となるが、あえて規制や制約を考えずに言えば、税金免除や金利を0にするということが動機となる。

子育て・出産の話もあったが、先進的な医療を釧路に引っ張ってくる必要がある。

地域特性を最大限に活かせるのは観光だと思う。全国の観光ルート7つの内に道東が選ばれたが、限定的な地域でのルートといえはこの地域ともう一つだけである。函館まで新幹線が来るわけだが、そこから飛行機に乗れば札幌も釧路も移動時間はそう変わらないので、国立公園、丹頂鶴、マリモ、アイヌ等、色々な地域資源を活かし、釧路市だけでなくこの圏域で取り組むべきと思う。

○自分の仕事では、食と観光を軸に営業で地元の物を情報発信している。4月の白糠道東ICが開通したので、札幌のホテルと連携して食のフェアを行った。7月には知床が世界遺産登録10周年を迎えたことから、同じようなことを知床バージョンで羅臼町と組んで行った。食の取組として独自にクラウドファンディングに取り組んでいて、釧路フィッシュのホエー鯖を第1号として売り込んでいる。今後も食と観光ということで、釧路ブランド、道東を売り込んでいくことが大切だと思う。

釧路市の今後の行く末は非常に厳しく、マイナスをプラスにという抗うことは非常に難しいと思うので、ある程度は状況を受け入れながら取り組んでいくかと思う。釧路が昔輝いていた時代は魚が獲れた時期で、その魚は戻ってこない。漁業よりは周辺地域と連携して恵まれた観光資源を活かし、観光客を誘致していきけるはず。例えば、まなぼつとがホテルだったら素晴らしいと思うし、キャッスルホテルを改装して、カラーリングを幣舞橋に合わせる等すると良い観光ロケーションになる。阿寒インターチェンジが開通して、道の駅を拡張するのも良いが、高速道路に乗ってきて阿寒に来た人達は一休みして、そのまま釧路市の中心街に入ってくない可能性もある。街中に観光客が入ってくるようにしなければならないし、釧路では観光をするのにどこを目指せばよいのかわからないので、観光客に動線を引いてあげる必要がある。

残念ながら釧路の街はきれいじゃない。むしろ汚い。空きビルだけの話ではなくゴミが多い。観光客の多いところの歩道がごみの集積場になっている。そういうところで観光客のリピート率はどうか疑問である。もっと釧路市民の意識を高めてウェルカム釧路というようなソフト面も必要。外国人観光客のためにWi-Fiスポットの整備も必要。市全体で取り組む必要がある。

港湾機能が釧路は素晴らしいので、物流拠点としてのハブ化を目指すべき。網走、北見の物流が苫小牧に回ることがなくなると思う。機能が強化されて仕事も増えてくれば競合他社も参入してくるし、それによって雇用も生まれると思う。

医療についても、先進医療を受け入れる、医大、病院の誘致を進めることによって、周辺からも人があつまり、札幌や東京に人口を持っていかれるということも防げるのではと考える。

○釧路市は他都市に比べてポテンシャルは低くない。観光資源では様々なものがある。函館では西部地区があって観光客が多くくるが、釧路も幣舞橋の南のところ散策すると、西部地区に近いものがあると思う。

ハローワークは過去に雇用創出に直接的な関わりを持っていた。直接的な失業対策は戦後復興期から平成7年までやっていたが、現在は直接的な現在は離職者対策、失業給付等の経済的支援や教育訓練を行いという点から雇用対策を行っている。若者や学生等を対象とした事業としてはUIターン事業が直接的に関連してくるかと思うが、実施されている機会が少ない。この管内の有効求人倍率は、今年6月現在までで66ヶ月連続で上がっていて、前年対比では増加が続いており、数字上非常に高い良い傾向で推移している。しかし、現状は企業等からの求人数が減少して、求職者数が

増加していることにより倍率が上がっている。職種で見ると、建設業、医療、介護、保育士というところが人手不足となっている。ハローワークの給付は高齢雇用継続給付や育児休業給付等があり再雇用への繋ぎをしているが、この管内の雇用保険の給付は約13億円となっている。

市とも連携をしているが、UIターンで人が戻るときに助成または給付をする、また大学へ進むときの奨励金を増額するなど自治体として予算を配慮してもらい、いかにして釧路に人を戻ってくるようにするのが大切だと考えている。

- 参加者の方々の地方創生に対する様々なご意見をいただいたが、その中でも地域資源を活かしての観光というお話があった。参加者のお一人からIRの資料をご提供いただいているので、その説明をお願いしたい。

○IRについて説明させてもらうが、IRの誘致というのは、単純に賭博施設を誘致するというものではない。平成17年より活動しているが、目的は観光業の強化で、あくまで地域に安定した雇用を創出し、新しい人の流れを作ることが目的。雇用の質といっても20代から30代の人の雇用の創出を考えている。また、観光収入にしても、2,500万人呼んで一人1万円を使ってもらうというよりは、2,500万円使ってくれる人を1万人呼ぼうという考えでいる。低い客単価で人数を掛け算する観光業の考え方ではないということ。IRというのは、阿寒国立公園の自然やアイヌ文化が共生する観光地、例を挙げるとドイツのバーデンバーデンのようなイメージで、カジノだけではなく、スパや様々な民間企業に助成を充てられるような好循環のまちづくりを目指している。デメリットでよく言われるのは、先入観で判断されていること。青少年はそもそも入場させないので悪影響はない。また、周辺の治安悪化も言われるが、IRという観光機能を備えた観光施設に関しては、治安悪化の実証がない。ギャンブル依存症患者は国内で560万人いるが、うち500万人がパチンコである。

石破大臣もこの間の地方創生講演で釧路に来たときに言われていたが、今だけ、ここだけ、あなただけ、という33つのキーワードこそが地方の活性化の切り口だと言われていたが、IRは当面全国に4施設でまさにそのキーワードのとおり。民間投資しか考えてないので、税投入がない最高の施設になると思っている。世界各国からの交流人口を増やして消費を活性化し、この地域の収支を高めることができるかと思う。

- 高い客単価、IRを通じて雇用を増やすというところ、また、阿寒の地域資源を活かした形という点で市役所も市長を筆頭に視察を行っている。今回、改めて貴重なご提言であると感じた。雇用の点でいうと、釧路市においては中小企業が多いことから、中小企業が果たしていくべき役割、方針等が重要になると思うが、その点についてももう少しお話をいただけたらと思うので、ご発言をお願いしたい。

○人口減というのは、経済的の縮小にも要因があると思う。この話をすると、行政が何かしてくれないと、という話に成りがちだが、本来経済人は、自分自身が活発に経済を引っ張っていかなければならないと思う。もっと地元にお金を落とす、新しい事業を起こす、あるいは既存の事業を拡大するということをしなければならない。自分達が行動を起こしていくという流れを作る決意をした上で、行政

にも力添えをいただき、政策提言をしてお願いしていきたいと考えている。一市民として、誰かがこの問題をどうにかしてくれる、という人任せではなく、市民の一人として自らが一步踏み出すべき。一つ一つの小さい行動が拡大して全体に波及していくイメージでやっていく必要がある。

●経済人として自ら状況を作っていく、流れを作るとのお話があった。本日、参考資料でお配りしている釧路市の政策プランにあるが、社会ストックを含めた地域資源をいかに活用していくかが重要になってくると思う。魅力的な資源の発掘等は市民との協働で行っていく必要があると考えている。そういった観点からも釧路市が力を入れていくべき点、取り組むべきことについてご発言いただきたい。

○アメリカのポートランドは、30年ほど前には人口流出や街が荒廃して非常に汚かったが、それが今はシアトルを抜いて一番住みやすいきれいな街となった。あのプロセスの中に幾つかヒントがあると思う。その取組の一つは、街中にデザインとアートの大学を持ってきて街を飾っていく。失業者にゴミを集めさせてお金を払う、もしくは生活保護をもらっている人には社会参画を義務付ける。このように地域に貢献できるようなシステムを作ってやっていた。また、街の一面の空いている土地にワゴンカーを置いて安く提供し、やる気がある人に商売をさせる。そういうことを組み合わせて、お金をかけなくても皆で汗をかき、知恵を集めて住みやすいきれいな街となったという話である。こういうところを見習って、プロジェクトを作って全市を挙げて進めていく。そういうことをやって欲しい。

●ポートランドの取組について、昔のレンガ倉庫等をうまく活用、リノベーションしながらまちづくりをしたという話を聞いている。街中の空きビルのリノベーションのプロジェクト等を市民主体で立ち上がったとの動きもあるので、非常に参考になるご意見をいただいたと思う。参加者の皆様からの意見等を踏まえて、さらにご意見をいただければと思う。

○釧路は冬の観光というのが弱い。氷まつりは名前が変わって昔からあるが、どんどん縮小されている。港まつりも担い手が少なくなってきたり、何か改善の手を打つ必要がある。たくぼく雪明りのまち釧路というイベントをやっているが、小学生にもランタンを作ってもらって、街を飾る取組を行っている。こういうことが、観光資源の一つにでもなったらと思う。市民団体の横の連携というのが必要だと感じているので、市役所にはコーディネーター的なことをお願いしたい。

●コーディネーターという話があったが、市ではまちづくり基本条例が10月から施行になる。市民主体のまちづくりを目指していく中、より一層市民協働の重要性が増している。また、昨年度から市では楽天やその他の様々な民間企業と連携する動きが急速に広がっており、今後のまちづくりをどのように展開させるかという視点が重要だと考えている。港や社会ストックの話をしていただいているが、この地域の拠点としての釧路についてご発言いただければと思う。

○昔は、自治体はお互いを競争相手としてか見ていなかったが、広域連携が深まってきている。各得意分野でその役割を担って集約していくことが重要である。それとやはり中心市街地の集約を行うべき。釧路は昔と比べて街が広がってしまい、大学生を街中の

イベントがあっても、バスの接続等が悪いとか、運賃が高いということで若い人を誘いにくい状況にある。昔ながらの住宅街は家が古くなってしまって、高齢者が一人で住んでいる、空き家になっているということも多い。住む場所を若い人達にうまくバトンタッチできる仕組みが必要だと思う。コンパクトにしていく仕組みを作るには、中心市街地のリノベーションは非常に重要だと思う。

雇用の問題だが、高卒の就職は良くなってきており90パーセントは就職出来ていると聞くが、釧路には大学が少ないのと、女性もほぼ半分は進学する時代なので、どうしても釧路を出てしまい、就職すると戻ってこない状況がある。そこが問題でどうしたらいいのか考えていかないとならない。

- 中心市街地については、様々な方からご意見をいただいているが、市では今、コンパクトな街づくりを進めており、さらには交通ネットワークの再構築も今後必要になってくると考えているところで、ご意見としてしっかり受け止めてやっていきたいと考えている。最後にオブザーバーの方もご意見あればお願いしたい。

△自分も釧路に来て3年半になるが、釧路の地域資源はたくさんあると思う。さらにそれを発掘して、どうやって活かしていくかがポイントだと思う。

街中の活性化の話が出ているが、リノベーションで街中を活性化できないかという取組を始めようとしているところ。空ビル、空室を逆に資源と捉えると、事業を行える空間が沢山あるという発想から始めている。これを活性化の起爆剤にしていきたいと考えている。皆様に様々なご提案やご参画をいただいきたいと思っているので、その時は協力をお願いしたい。また、総合戦略の中でもきちんと位置付けて活性化の取組を地域全体で進めていけるようになればと期待している。

5. 閉会

(了)